

◆所沢市域イベント  
「落ち葉はきと落ち葉遊び」

八幡湿地のまわりの雑木林で落ち葉掃きと集めた落ち葉を使った遊びをします！

日 時：1月19日(日) 10:00~14:00  
対 象：小学生以上(小学生は保護者と参加) 定員：20名  
参加費：100円(保険代)  
要申込：12月19日から受付を開始します。

◆大人の自然観察会~初級編・冬~

さまざまな動植物が見られるみどり森で、大人向けの自然観察会を行います。自然界の営みを再発見！

日 時：2月22日(土) 9:30~12:00  
対 象：中学生以上 定員：20名  
参加費：100円  
要申込：1月22日から受付を開始します。

◆親子はじめての自然観察

親子向けの自然観察会です。早春の水辺や雑木林で活動を始めた生きものを間近に観察しましょう。

日 時：3月9日(日) 9:30~12:00  
対 象：小学生と保護者 定員：20名  
参加費：100円(保険代)  
要申込：2月9日から受付を開始します。

◆所沢市域イベント  
「雑木林の手入れとクラフトづくり」

八幡湿地に面した雑木林で、雑木林の手入れ作業をします。作業の後は作業で出た材を使ってクラフトづくりを楽しみましょう。

日 時：2月2日(日) 10:00~14:00  
対 象：小学生以上(小学生は保護者と参加) 定員：20名  
参加費：100円(材料費・保険代)  
要申込：1月4日から受付を開始します。

◆幼児とパパママで楽しむ自然あそび

幼児と親を対象にした短時間プログラムです。早春の雑木林で親子でのんびり遊びませんか？

日 時：3月30日(日) 10:00~12:00  
対 象：4~6歳の未就学児と保護者 定員：20名  
参加費：100円(保険代)  
要申込：3月1日から受付を開始します。

★イベントのお問合わせ・申し込み★

電話(TEL 04-2934-4396)で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。イベント内容等の詳細は、お気軽にお問合せください。みなさんの申込みをお待ちしております！

「みどり森週末ガイドウォーク」実施中！

上記イベントの他、第2土曜日と第4日曜日に当日募集型のガイドウォークを実施中。案内所や大谷戸湿地周辺をスタッフがご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマか、当日までお楽しみに！

1~3月までのガイドウォーク実施日(予定)：  
1月11日(土)、1月26日(日)、2月8日(土)、2月23日(日)、3月8日(土)、3月23日(日)  
時間：13:30~14:30(約1時間) 参加費：無料(全ての日程で共通)

博物館からのお知らせ

霜がおりて、ぬかるみですべりやすくなっている所があります。また、強風の日はかかり木の落枝などにご注意ください。

<p>◆緑の森博物館の利用ルール◆</p> <p>緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生き物をむやみにとったり、傷つけたりしないでください。</li> <li>2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。</li> <li>3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。</li> <li>4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)</li> <li>5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。</li> <li>6) バーベキューや花火など火を使わないでください。</li> <li>7) ゴミは持ち帰りましょう。</li> </ol>	<p>【アクセス】</p> <p>★公共交通機関をご利用の場合 小手指駅南口より西武バス「宮寺西」または「箱根ヶ崎」行き乗車、約25分 「狭原」バス停下車、徒歩約10分</p> <p>開館時間 9:00~17:00 【入館無料】 休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく) 【公式HP】<a href="http://saitama-midorinomori.jp/">http://saitama-midorinomori.jp/</a> 指定管理者 株式会社自然教育研究センター</p>
<p>発行：さいたま緑の森博物館 発行年月：2014年1月 住所：〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1 TEL/FAX：04-2934-4396</p>	

木々が葉を落とし、みどり森(緑の森博物館)は、すっかり冬の様相です。静かに道を歩いていくと、道脇の杭に鳥がとまりました。ルリビタキです。冬の里山で一度は会いたい、あこがれの鳥。背面はその名の通り瑠璃色、わき腹はオレンジ色。モノトーンの冬の森でこんな素敵な色の鳥に出会えるとやっぱり嬉しいものです。今回の特集記事では、みどり森で見られる冬鳥について紹介します。ルリビタキのように、みどり森で冬を過ごしている鳥たちに、会いに来てみてくださいね。



2013年1月撮影

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地などについて、毎号キーワードを挙げて紹介していきます。今回は『落ち葉掃き』と『柴刈り』です。どちらもかつての里山の暮らしや管理には欠かせないものでした。

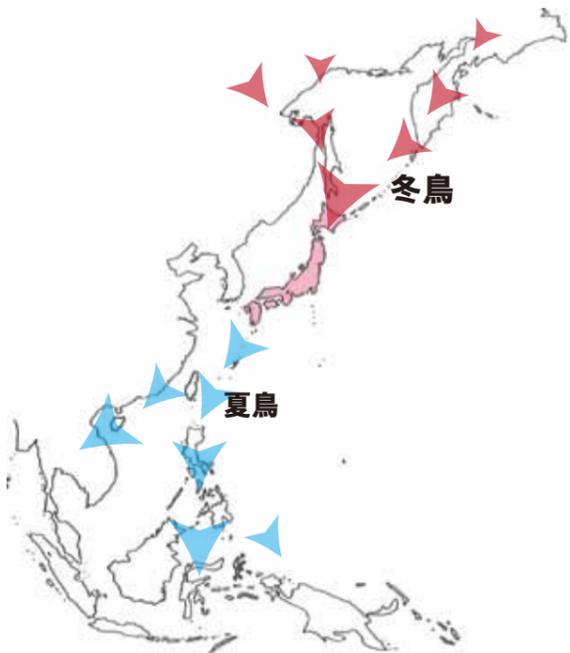
<p>その4 柴刈り(しばかり)</p> <p>山や雑木林にあるササや細い木の枝などを刈ったり拾ったりすること。集めた枝は薪や炊きつけなどの燃料として利用する。落ち葉掃きの前にこれを行うことで、熊手がひっかからず、作業を行いやすくなる。</p> <p>みどり森では... 落ち葉掃きのイベントの中で、落ち葉を集めやすくなるために実施しています。また、林の中の見通しをよくするために、低木のクサギ、ゴズイ、タラノキ、ガマズミなどを刈り集めます。</p> <p>参考文献：『いまに伝える 農家のモノ・人の生活館』 著者：大館勝治・宮本八恵子 発行：柏書房株式会社</p>	<p>その3 落ち葉掃き(おはばはき)</p> <p>山の落ち葉を燃料や堆肥にするために、熊手などを使って掃く作業のこと。「落ち葉掃き」の呼び方は地域によって異なり、みどり森のある入間市域では「クズハキ」と呼ばれている。落ち葉掃きをすることで地面に日光が当たりやすくなるので、植物の発芽を促すことにもつながる。</p> <p>みどり森では... 毎年イベントで落ち葉掃きを行い、堆肥にして利用しています。また、もの好きなスタッフが落ち葉を集めている光景をみかけることも...。しかし、博物館全域で作業を行うことは人手不足や管理できない林が増えて難しくなっています。</p>
---	--

# ふゆどり 冬鳥がやってきた！！

秋のおわり、越冬地を求めて鳥たちの移動（渡り）がはじまります。夏鳥が南へ去り、かわって遠くシベリア方面から海を越えて冬鳥が渡ってきます。

また、山地で繁殖していたものが冬に低地へ下りる国内での移動をする漂鳥（ひょうちょう）も狭山丘陵からみれば冬鳥です。

では、みどり森でどんな冬鳥が見られるのかご紹介しましょう！



## 渡りはたいへん

長い進化の過程で、空を飛ぶという能力をもった鳥類は、他の動物とちがって、天候が悪化する季節を避けたり、豊富な食料を求めて条件のよい場所への移動が可能になりました。海や山脈を飛び越えて移動することができるのです。

日本に来る冬鳥の多くは、雪と氷に閉ざされる北の国から寒さを避けて渡ってきます。ハクチョウのように群れで渡るものもありますが、1羽だけの夜間飛行という鳥も少なくありません。

渡りの距離はさまざまですが、野を超え、山を超え、海を超える自力の飛行旅行は、苦労が多いに違いありません。

## 山から下りてきました！

夏は高地で繁殖し、冬は低地で過ごす国内移動の鳥たちです。



**アオジ**  
(ホオジロ科)

全長 16cm

初夏の高原で堂々とさえずっていた時とは対照的に、やぶの中で地上の草の実などをついばみながら静かに過ごす。そのため、お腹の黄色はなかなか見えない。みどり森では湿地のアシ原や林のふちで「チッ」という声がしたら探して見よう。



**ルリビタキ**  
(ヒタキ科)

全長 14cm

標高 1500m以上の針葉樹林で繁殖し、冬に山里に下りてくる。ジョウビタキよりも林の中を好み、1羽ずつ縄張りをもつ。地上の虫を枝から舞い降りてつかまえる。オスは頭から尾羽まで瑠璃色。若いオスはメスと同じような地味な色で、全身が瑠璃色になるには2年はかかるという。

## 北の国からやってきました！

冬の寒さ厳しいシベリアから渡ってくる鳥たちです。

**ジョウビタキ**  
(ヒタキ科)

全長 14cm

顔が黒く胸から腹が明るい橙色はオス、メスは顔から腹にかけて淡い茶褐色と見分けやすい。林のふちや畑などの明るく開けた環境を好み、1羽ずつ縄張りをかまえて木の実や虫を食べる。みどり森では案内所のまわりや伐採地で見かけることが多い。



**カシラダカ**  
(ホオジロ科)

全長 15cm

10羽から数十羽の群れで冬を過ごす。ひらけた川原や草地、ときには林の地面に下りて草の実をついばむ。みどり森では湿地のアシ原の中からバラバラと飛び立つのをよく見かける。春が近づくと、オスの頭は黒くなる。



**ツグミ**  
(ヒタキ科)

全長 24cm

渡ってきたばかりの頃は、山の木の実を食べ、山の食べ物がなくなると次第に低地に下りてくる。みどり森のエノキの実などによく来るが、実が落ちてなくなると、森からいなくなり畑や民家の庭などで見られる。繁殖地の春が遅いのか、ゴールデンウィーク頃まで見かける。



**シロハラ**  
(ヒタキ科)

全長 24cm

暗い林の地面で落ち葉をガサガサめくって虫や実をとって食べている。驚いて飛び立つときなどに「クビビビッ」とか「チャチャチャッ」という強い声で鳴く。みどり森ではシラカシなどの常緑樹が茂った林の中に見られる。

## まだまだいるぞ！ 冬の鳥



ここで紹介した種類のほかに、冬の鳥はまだまだいます！

- ・シメ
- ・ウソ
- ・アトリ
- ・ベニマシコ
- ・アカゲラ
- ・キクイタダキ
- ・ヒガラ
- ・カケス
- など



年によっては影の薄い彼らの紹介は、またの機会をお楽しみに！



冬鳥情報を知りたい方は、案内所のスタッフに聞いてね！